

京都大學文學部哲學科卒業論文題目

——昭和三十四年三月——

哲學專攻

學士 青野 均 カントに於ける感性と悟性

神野慧一郎 數學的認識

下村 鉄二 時間と存在

西谷 敬 内官について

森 啓 カントの定言命法に關する一考察

學士 小熊 勢記 カントの自由論

太田 早苗 觀念のみちびき・眞理のめあわせ

川村 榮助 カントと歴史の問題

常俊宗三郎 超越論的實在

——感性界と悟性界の此方に——

西谷 裕作 ライブニッツの實體論

服部 英二 存在論的神秘と人格性

水野 和久 フッサールにおける明證

山本 昌男 フッセールに於ける先驗的主觀性に就いて

西洋哲學史專攻

學士 加茂 直樹 ロックの實體論

川田 殖 プラトンにおける善のアイデアの一考察

修士 松居 正俊 プラトンにおける快樂の問題

北嶋 美雪 プラトンのドクサに就いて

——主として「テアイテトス」、「ソピス  
テス」に據る——

向井 守 フランクフルト時代におけるヘーゲルの實

存

印度哲學史專攻

修士 澁谷 厚保 ヨーガに於ける眞知について

井元 義盛 活字の効果による意見變容の實驗的研究

心理學專攻

學士 伊吹 燿子 社會的態度尺度の作製およびそれによる發

達的研究

小島 金造 子供の家族役割の認知とパーソナリティ及

び家族の類型との關係について

榑原 幸一 顯現性不安尺度の得點と回避條件づけ

青少年における職業希望の形成と發達

清水御代明 假説檢證の過程

——自由選擇法による圖形分類作業につ

いて——

竹村 毅 職業のグループダイナミックス的研究

小集團の課題解決機能に及ぼす集團凝集性

永田 良昭 職業のグループダイナミックス的研究

の效果について

幡野 照子 對連合學習における媒介過程

——運動反應を用いて——

峰屋 良彦 集團内の地位關係についての實驗的研究

古宮 修 單語の認知關による構えの研究

松尾 守 ソミオメトリックスステイタスを規定する幾

らかの要因についての考察

松井 保 發達的にみた數學能力

森本 直生 ロールシャッハ・テストに於ける象徴反應

の研究

安本 美典 文章の性格學建設への基礎的研究

山口 哲哉 Bruner 効果の實驗的檢討

——見かけの大きさに及ぼす圖柄の効果

——

修士 井上 和子 兒童のロールシャハ反應

石田 稔子 同調行動に及ぼす集團の凝集力と關與度及

び人格的要因について

宇地井美智子 概念の發達過程に關する實驗的研究

高田 登 第一次信號系と第二次信號系の相互作用

——知覺・學習心理學及び性格論への展

開——

都守 淳夫 回避反應の消去過程に及ぼす作業量の影響

名倉啓太郎 反應機制の研究

——いわゆる「セット」と反應の促進・

抑制作用——

中西 啓子 幼兒の遠近判斷における重なるの要因

根本 則明 學習材料の screen の効果について

——系列及び孤立の現象を中心として

倫理學專攻

學士 山内友三郎 プラトーンの「スュムポシオン」について

和田 好彦 デカルトに於ける自由意志に就いて

美學美術史專攻

學士 永島 洵三 二十世紀に於けるデザインの展開と將來

森川 恵昭 テュヌの藝術論に於ける價値の役割

白山 定雄 レーピンの繪畫に現われた人間像

修士 杉村 孝子 文藝に於ける表現主體の問題

義若 和子 構想力と悟性の調和

——カントの「美的判斷力」に關する一

考察——

社會學專攻

學士 小島 春雄 日本村落構造の實證的研究

修士 アマンダ・エノハ 農村共同社會組織

シャフィウテン・シャリフ 勢力と社會

笠原 成郎 現代社會の官僚制

渡部 定雄 社會構造と人格形成

宗教學專攻

學士 小笠原亮一 カントにおける神學論の問題をめぐつて

神保 孝之 實存と自我

藺田 坦 エックハルトにおける靈の根源性について

武田 脩 カントの實踐理性批判に於ける道徳性の原

理と理性の自律

森定 齋 キエルケゴールに於ける「絶望」の概念と

その超克

修士 金子 晴勇 アウグスチヌスに於る理性と信仰

倉澤 行洋 ニーチェ「永却回歸」思想に關する一考察

藤山 英磨 キエルケゴールに於ける實存の構造

佛教學專攻

修士 荒牧 典俊 虛妄分別について

季平 惠海 中觀哲學の研究

基督教學專攻

修士 高野 晃兆 創世記二・三章の史料について

修士 水垣 涉 原始基督教における *backslaps, 'tyoos* に

ついて

### 京都大學大學院文學研究科

#### 博士課程單位取得者研究發表題目

(哲學科關係)

——昭和三十四年三月十三日、十四日

於文學部第九講義室——

#### 哲學專攻

磯江 景孜 カント時間論

——フッサールとの比較に於いて——

木村 彰吾 即自・對自の對立からみたサルトルの人間

#### 觀

瀨島 豊 ハイデッガーに於ける「有と人間の本質」

觀山 雪陽 ヒューム哲學の一考察

#### 西洋哲學史專攻

向坂 寛 エウリピデス悲劇「エレクトラ」の一考察

——主として合唱歌減少の問題——

#### 心理學專攻

大羽 葵 視空間知覺の研究

本多 一郎 翻譯機械の歴史、現状と將來及びその意義

について

丸山 康則 智的機能の研究に於ける諸問題について

村井 潤一 乳兒の言語發達

森川彌壽雄 對連合學習の研究

#### 美學美術史專攻

北村ひろ子 言語機能の藝術的意味

和高 伸二 視覺における身體性的の問題

#### 社會學專攻

宮城 宏 インドのカスト制度

#### 宗教學專攻

岡村 圭眞 ベーメにおける精神と自然

山内 貞男 根源からの自由

——エックハルトを中心として——

山本 誠作 カントの宗教哲學

——特に *Moralität* と *Glückseligkeit* の

## 佛教學專攻

工藤 成樹 轉變と個性

小島 誠一 佛教に於ける有と無との一考察

## 新着外國雜誌所載論文一覽

## ——哲 學——

REVUE DES SCIENCES PHILOSOPHIQUES ET THÉOLOGIQUES, Tome XLII—N° 1, Jan. 1958

Dreyfus, F.: Le thème de l'héritage dans l'Ancien Testament.

Baron, R.: Le «Sacrement de la Foi» selon Hugues de Saint-Victor.

Saffrey, H.-D.: Bulletin d'histoire de la philosophie ancienne. Dubarle, A.-M.: Bulletin de théologie biblique.

Gy, P.-M.: Bulletin de liturgie.

REVUE DES SCIENCES PHILOSOPHIQUES ET THÉOLOGIQUES, Tome XLII—N° 2, Avr., 1958.

Spicq, G.: Nouvelles réflexions sur la théologie biblique.

De Vooght, P.: L'ecclésiologie catholique à Prague autour de 1400.

Camelot, P. Th.: Théologie monastique et théologie sco-

lastique.

Gils, P.-M.: Les collations marginales dans l'autographe du commentaire de S. Thomas sur Isaac.

Philippe, M. D.: La notion de relation transcendantale est-elle thomiste?

Léonard, A.: La foi principe fondamental du développement du dogme.

Cornéris, H.: Bulletin d'histoire des religions.

Viard, A.: Bulletin de théologie biblique.

Walz, J. N.: Bulletin de théologie protestante.

REVUE DES SCIENCES PHILOSOPHIQUES ET THÉOLOGIQUES, Tome XLII—N° 3, Juillet, 1958.

Denis, A.-M.: La fonction apostolique et la liturgie nouvelle en esprit.

Hamery, J.: Le programme de Karl Barth et le vœu de tout théologien.

Poupar, P.: Lettre de Möhler à Bautain sur les rapports de la raison et de la foi.

Gardel, H. D.: Bulletin de philosophie générale.

Dreyfus, F.: Bulletin de théologie biblique.

Camelot, P. Th.: Bulletin d'histoire des doctrines chrétiennes.